

臨床所見による川崎病冠状動脈病変の早期発見の参考基準についての検討、第2報：発症10日以内の臨床所見についての検討

東京医科歯科大学小児科 保崎純郎、泉田直己、石原啓志、土屋史郎、清水純一、
渡部誠一
日本IBM 伊藤昭治

目的

昭和58年度には、臨床所見による川崎病冠状動脈病変を早期発見(14病日)するための参考基準を報告した。昭和59年度はさらに早期の予測が可能な基準について検討したので報告する。

対象

昭和56年9月から昭和58年11月までに発症した川崎病患児の内、6病日までに入院して、3~6病日と7~10病日に諸検査のできた38例である。なお、すべて aspirin 単独又は dipyridamol 併用投与例である。

方法

経時的に実施した断層心エコー図検査を参考にして正常群26例と異常群12例に大別した。そして有熱期間と、3~6病日と7~10病日の白血球数、血色素量、血清アルブミン値、血小板数、血沈値CRP値の7項目について両者間の成績につき比較検討した。

結果

- (1) 有熱期間は正常群で 8.7 ± 1.1 日、異常例では 10.0 ± 0.0 日で、両者間で有意差を認めた。
- (2) その他の検査所見の病日別の内訳は表1のごとくである。

白血球数：3~6病日で正常群と異常群に差はなく、7~10病日では正常群でわずかに減少、異常群で不変の傾向がみられた。

血色素量：3~6病日で両群ともほぼ同様であるが、7~10病日では正常群が軽度減少したのに対し、異常群での減少は著明であり、両者間に有意差を認めた。また、血色素量の3~6病日と7~10病日間の変化では正常群 -0.7 ± 0.9 、異常群 -1.5 ± 0.7 で両者間に有意差を認めた。

アルブミン値：3~6病日では両者間にほとんど差はなかったが、7~10病日になって異常群で急激な低下がみられ、両者間で有意差を認めた。

血小板数：3~6病日では両者間にほとんど差はなく、7~10病日で正常群での増加が大であったが、両者間に有意差は認めなかった。しかし、さらに検討を要する項目と思われた。

血沈値：3~6病日と7~10病日いずれでも両者間に差はなかった。

CRP値：3～6病日では両群ともほぼ同様であった。7～10病日では正常群ではすでに減少しているのに、異常群ではやや増加していた。

以上の結果、発症10日以内では有熱期間、血色素量、アルブミン値、血色素量の変化の4項目で正常群と異常群の間で有意差を認めた。

(3) 上記の検討成績を参考に、(1)有熱期間10日以上、(2)最低血色素量10.0g/dl、(3)最低アルブミン値3.5g/dl以下、(4)血色素量の低下1.5g/dl以上の4項目の参考基準を設定した。

上記の基準の4項目のすべてをみたすものは異常群3例、正常群0例、3項目以上をみたすものは異常群8例(8/12)、正常群2例(2/26)、2項目以上をみたすものは異常群10例(10/12)、正常群6例(6/26)、1項目以上をみたすものは異常群12例(12/12)、正常群13例(13/26)であった。

まとめ

川崎病の発症10病日以内では、上記の4項目の参考基準の内2項目を有するものでは冠状動脈病変の合併が疑われ、とくに3項目以上を有するものではその合併が強く疑われた。したがって、上記の基準は病初期の治療および管理に役立つと思われる。

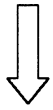
表1 計 算 値

		3～6病日	7～10病日
白血球数	正常群	14200±2900	12600±4100
	異常群	14800±3100	14600±4500
血色素量	正常群	11.7±1.1	11.1±1.0
	異常群	11.7±0.9	10.1±0.7
Albumin値	正常群	4.1±0.3	3.8±0.3
	異常群	4.0±0.4	3.4±0.3
血小板数	正常群	30.6±10.1	44.7±13.3
	異常群	34.9±9.9	40.1±9.0
血沈値	正常群	60.6±27.8	72.4±29.2
	異常群	59.1±19.1	65.6±29.8
CRP値	正常群	3.7±1.1	2.8±1.4
	異常群	3.9±1.0	4.1±1.0

単位は血色素量：g/dl、Albumin値：g/dl、血小板： $\times 10^4/mm^3$ 、血沈値：1時間値



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

昭和 58 年度には、臨床所見による川崎病冠状動脈病変を早期発見(14 病日)するための参考基準を報告した。昭和 59 年度はさらに早期の予測が可能な基準について検討したので報告する。

まとめ

川崎病の発症 10 病日以内では、上記の 4 項目の参考基準の内 2 項目を有するものでは冠状動脈病変の合併が疑われ、とくに 3 項目以上を有するものではその合併が強く疑われた。したがって、上記の基準は病初期の治療および管理に役立つと思われる。